

# 令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区名	阿倍野区
学校名	大阪市立丸山小学校
学校長名	三木 健史

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

## 1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 2 調査内容

### (1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

### (2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

## 3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・大阪市立丸山小学校では、第6学年 81名

## 令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

平均正答率については、国語科と算数科は全国平均より上回り、理科は全国平均を下回り大阪市平均と同じ結果となった。(国語は全国平均より+1.2ポイント、算数は+4ポイント、理科は-2.1ポイント)  
四分位区分(政党数の高い順に概ね25%区切りで4つに分けたもの)では、区分IV(学力に課題の見られる児童の割合)の割合が、国語科、算数科とともに全国平均より低く、これまでの取組の成果が表れている。  
平均無解答率については、国語科と算数科は全国平均より無解答率が低く優れている。理科は全国平均と同じであった。問題に対して最後まであきらめずに解答しようとする姿勢が表れている。(国語-0.1ポイント、算数-0.5ポイント、理科±0ポイント)

## 分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

### [国語]

学習指導要領の内容別に見ると、「言葉の特徴や使い方」「話すこと・聞くこと」の領域は全国平均を上回り、特に「言葉の特徴や使い方」については、全国平均を7.7ポイント上回っている。これは昨年度より国語科を研究教科として、学力向上支援チーム事業のスクールアドバイザーが定期的に訪問し、教員の国語科における授業改善への指導助言の効果と考えられる。また、ブロック学力推進事業で6年生は「日本語検定」を行っているので、「日本語検定」の合格をめざし取組を進めている効果が表れている。

改善すべき課題は、「情報の取り扱い方」の領域が全国平均より6.3ポイント下回り、情報と情報との関係づけの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解して使うことがあまりできていない。

### [算数]

学習指導要領の領域別に見ると、5領域のうち4領域で全国平均を上回っている。特に、「数と計算」「変化と関係」「データの活用」が全国平均を大きく上回っている。「測定」領域は、全国平均より0.5ポイント下回ったが、ほぼ同じである。デジタルドリルや学習動画コンテンツを活用して個々に応じた学習プリントに継続的に取り組み、基礎学力の定着が図られたと思われる。改善すべき課題は、角の大きさの理解、はかりの目盛りを読むなど、学習用具を使った指導を徹底する必要がある。

### [理科]

学習指導要領の区分・領域別に見ると、「エネルギー」を柱とする領域は、全国平均を上回っている。残りの3つの領域は全国平均を下回り、特に「地球」を柱とする領域が全国平均より6.8ポイント下回っている。改善すべき課題は、実験の方法や条件を発想すること、実験結果をもとに結論を導いた理由を書くこと 知識と関連付けて適切に説明することが弱いので、科学的に探究し、問題を解決していく過程で自分の考えを表現できる力を実験や観察を通して育てていく。

質問調査より

児童質問紙の結果から、「学校に行くのは楽しいと思いますか」についての肯定的な回答が全国より10.6ポイント低く、全国との差が大きいため課題と考えられる。「自分には、よいところがあると思いますか」についての肯定的な回答は全国より5.9ポイント低い。「算数の勉強は好きですか」についての肯定的な回答は全国より21.2ポイント低く全国との差が大きいが、平均正答率は全国を上回っている。

課題の改善に向け、授業に人権の視点を入れ皆が達成感を味わう授業、皆が人を認める場面をたくさん作っていく、人と比べるのではなく個人のがんばりが評価され、クラスに自分の居場所があり達成感を味わうことができる学校や学級を作っていく必要がある。

「国語の勉強が好きですか」「理科の勉強は好きですか」についての肯定的な回答は全国より13ポイント高い。これは教科担任制や理科専科制を行っている成果だと考える。また、「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらい勉強をしますか」について、2時間以上勉強する児童の割合が全国より11.8ポイント高い。これまでと比べタブレット端末を毎日持ち帰っているので、インターネットを活用して学ぶ時間が増えているからだと考えられる。

## 今後の取組(アクションプラン)

- 一人ひとりに応じた学習課題や活動の工夫、子どもの思考を深めるための発問や指導の工夫をして、思考力、判断力、表現力を伸ばすための授業改善を行っていく。
- 子どもたちが生き抜くための基本となる学力をすべての児童に身につけさせていくために、家庭学習においてタブレット端末を積極的に活用できるようにする。また、ブロック化による学校支援事業の予算を活用して、英語検定Jr(5年)、日本語検定(6年)に今後も取り組んでいく。
- 学力向上支援チーム事業のスクールアドバイザーから今後も教員の授業改善に向け直接指導してもらう。
- 困ったときにはいつでも相談できる学校、教職員が積極的に子どものよいところを見つけ認めていく学校を作りに努め、子どもたちの自尊感情を高め、教職員の人権感覚を育成していく。

## 【 全体の概要 】

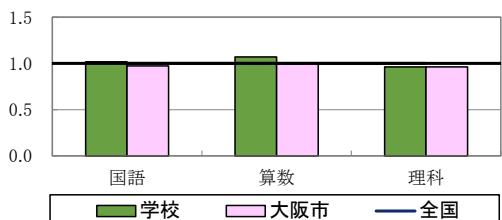
**平均正答率 (%)**

	国語	算数	理科
学校	68	62	55
大阪市	65	58	55
全国	66.8	58.0	57.1

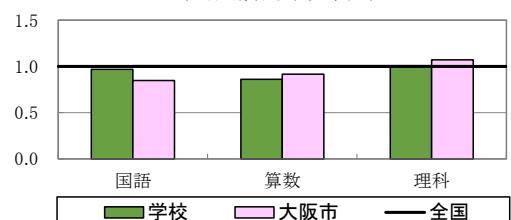
**平均無解答率 (%)**

	国語	算数	理科
学校	3.2	3.1	2.8
大阪市	2.8	3.3	3.0
全国	3.3	3.6	2.8

平均正答率(対全国比)



平均無解答率(対全国比)



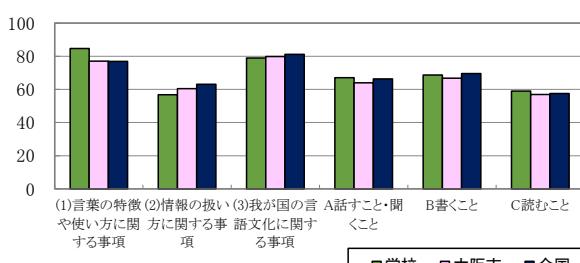
## 【 国 語 】

学習指導要領の内容	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	2	84.6	77.1	76.9
(2)情報の扱い方に関する事項	1	56.8	60.4	63.1
(3)我が国の言語文化に関する事項	1	79.0	79.9	81.2
A 話すこと・聞くこと	3	67.1	64.0	66.3
B 書くこと	3	68.7	66.7	69.5
C 読むこと	4	59.0	56.9	57.5

## 【 算 数 】

学習指導要領の領域	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	8	68.7	62.7	62.3
B 図形	4	56.5	56.4	56.2
C 測定	2	54.3	54.9	54.8
C 変化と関係	3	62.6	58.2	57.5
D データの活用	5	67.2	61.9	62.6

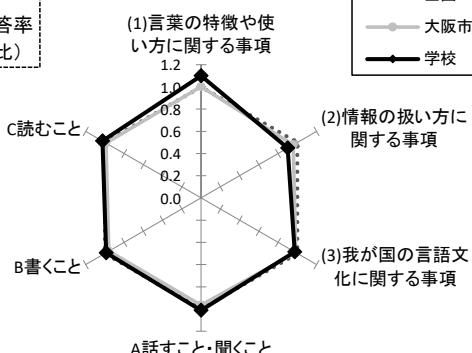
国語 内容別正答率(学校、大阪市、全国)



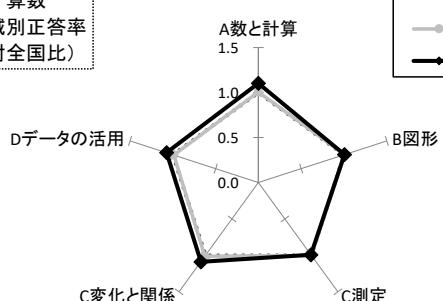
算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



国語  
内容別正答率  
(対全国比)

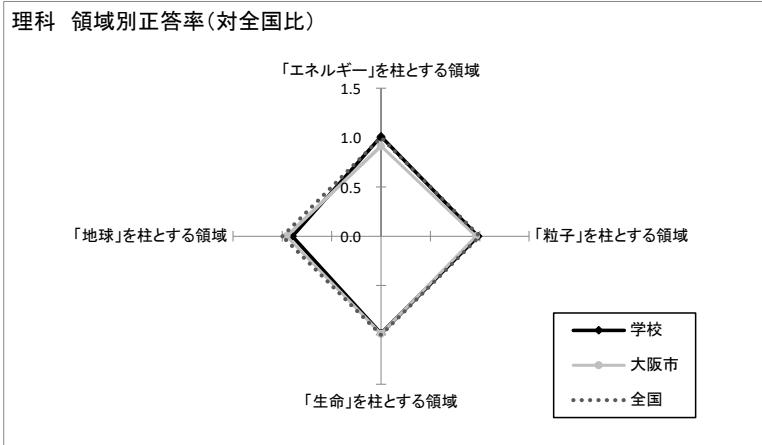
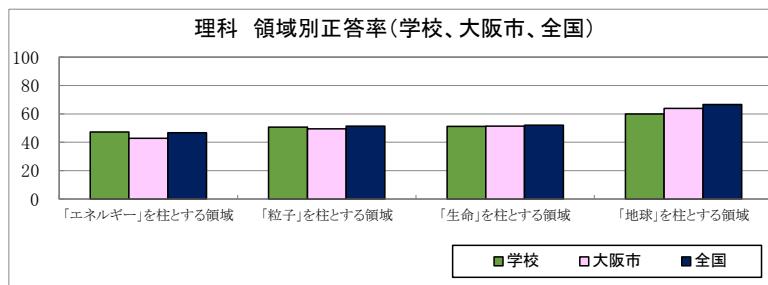


算数  
領域別正答率  
(対全国比)



## 【 理科 】

学習指導要領 の区分・領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 区分	「エネルギー」を 柱とする領域	4	47.2	42.7
	「粒子」を 柱とする領域	6	50.6	49.5
B 区分	「生命」を 柱とする領域	4	51.2	51.4
	「地球」を 柱とする領域	6	59.9	63.8



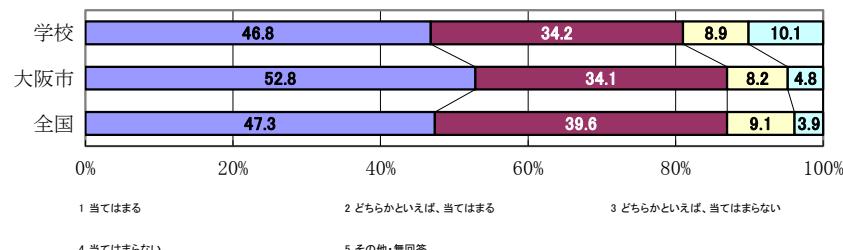
## 児童質問より

□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8

質問番号
質問事項

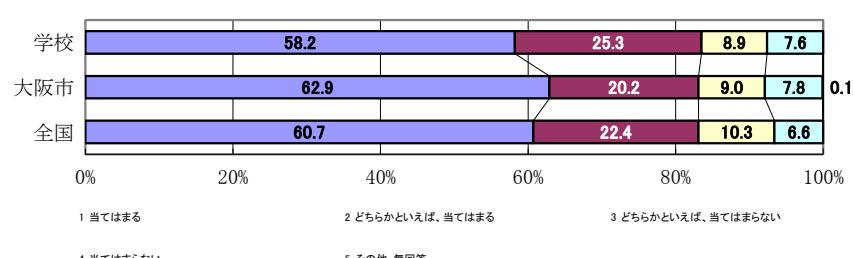
5

自分には、よいところがあると思いますか



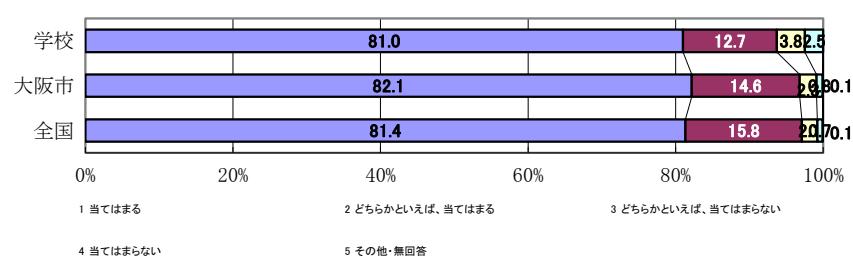
7

将来の夢や目標を持っていますか



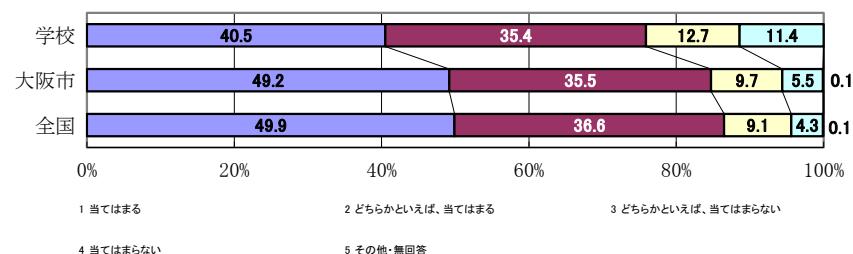
9

いじめは、どんな理由があつてもいけないことだと思いますか



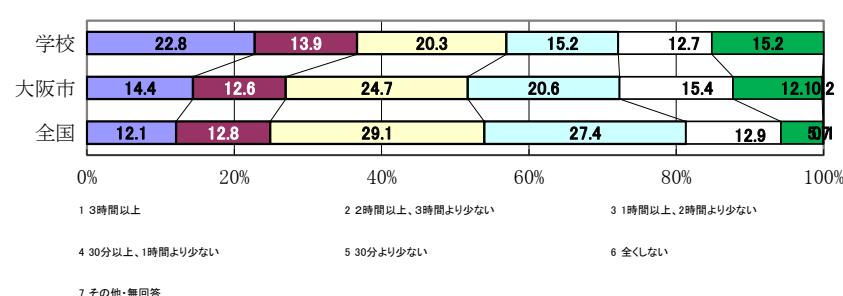
12

学校に行くのは楽しいと思いますか



17

学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)



## 児童質問より

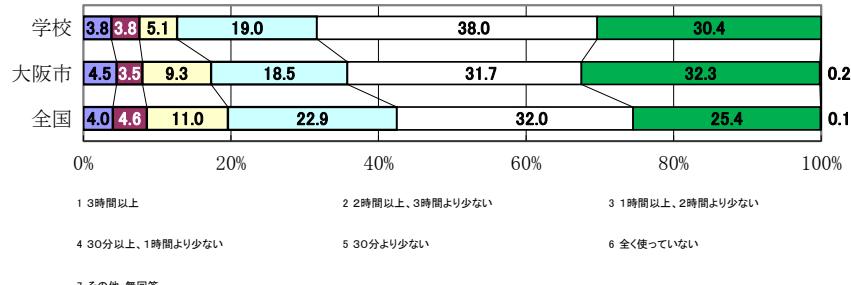
□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8

質問番号

質問事項

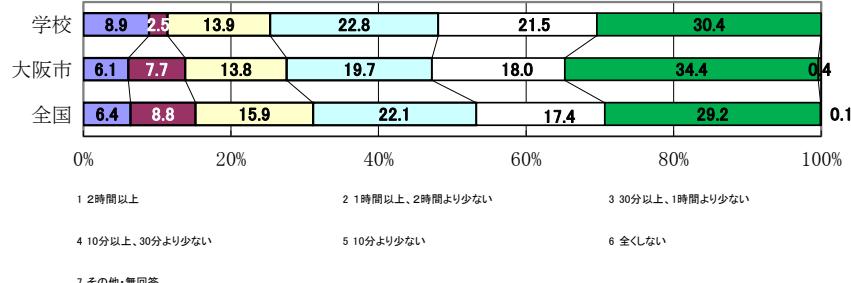
18

学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか(遊びなどの目的に使う時間は除く)



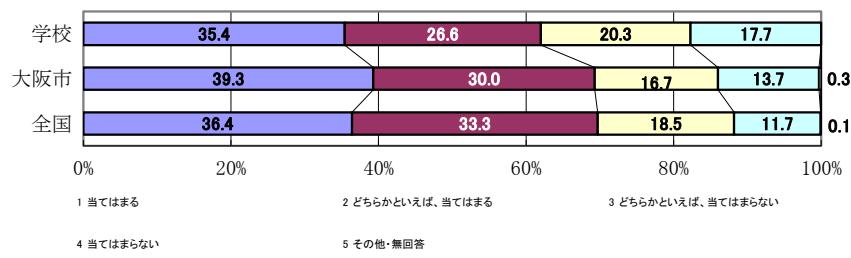
21

学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)



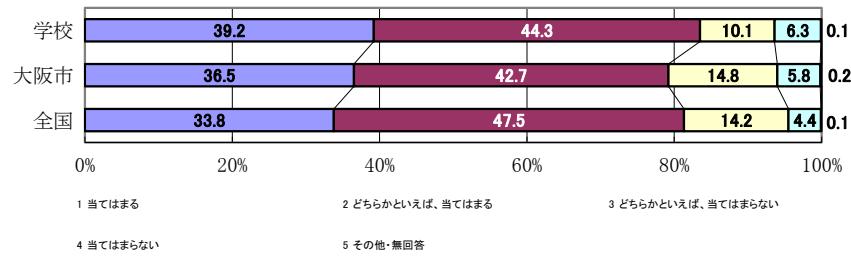
24

読書は好きですか



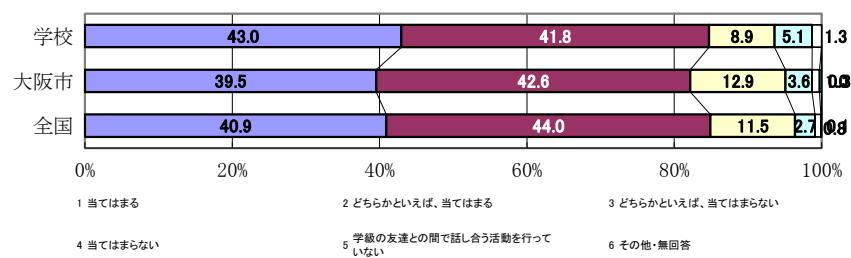
27

地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか



35

学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方方に気付いたりすることができますか



## 学校質問より

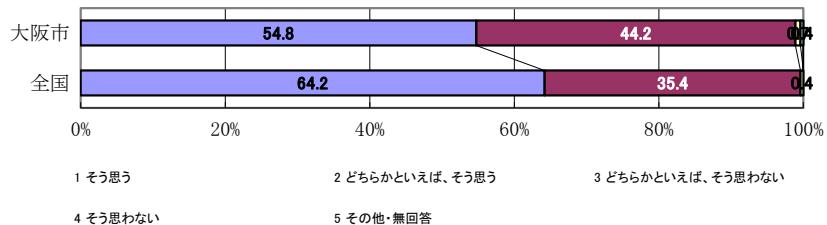
■1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8 ■9 ■10

質問番号  
質問事項

21

学校運営上の課題への対応に当たっては、各教職員(支援スタッフを含む)の専門性を活かせるよう適切な役割分担や連携協働をしていますか

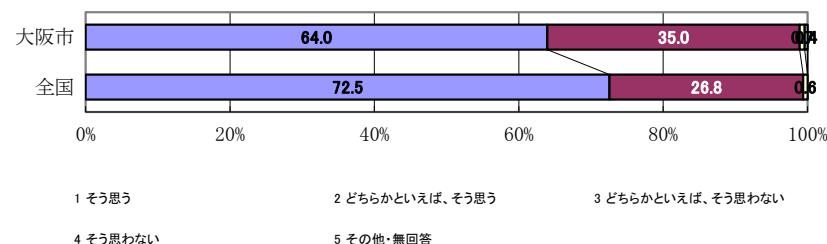
学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



23

教職員が困っているとき、管理職と教職員との間で随時相談できるなど組織的に対応する体制を構築していると思いますか

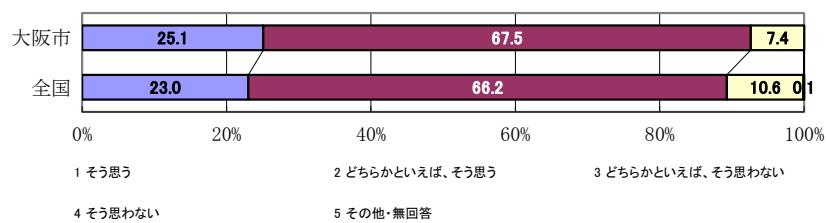
学校 「そう思う」を選択



27

調査対象学年の児童は、学級やグループでの話合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができているだと思いますか

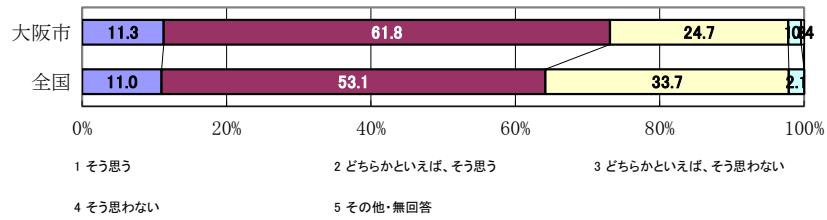
学校 「そう思う」を選択



29

調査対象学年の児童は、授業では、自分で学ぶ内容を決め、計画を立てて学ぶ活動を行っていると思いますか

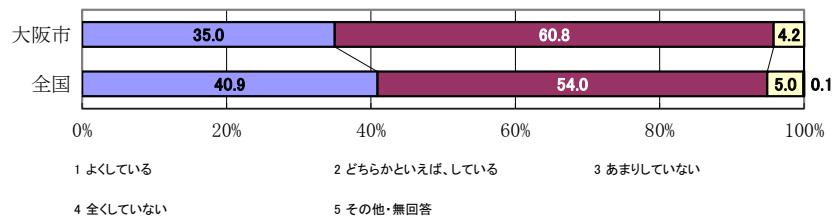
学校 「どちらかといえば、そう思わない」を選択



37

調査対象学年の児童に対して、学級生活をよりよくするために、学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法等を合意形成できるような指導を行っていますか

学校 「よくしている」を選択



## 学校質問より

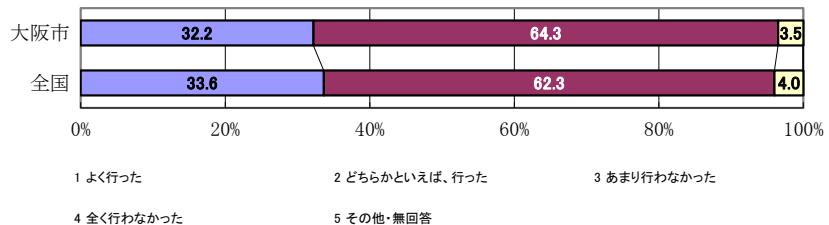
■1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8 ■9 ■10

質問番号  
質問事項

44

調査対象学年の児童に対する国語の授業において、前年度までに、目的に応じて説明的な文章を読み、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができる指導を行いましたか

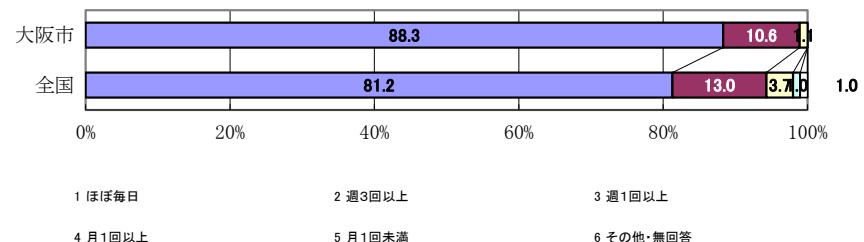
学校 「どちらかといえば、行った」を選択



55

前年度に、教員が大型提示装置等(プロジェクター、電子黒板等)のICT機器を活用した授業を1クラス当たりどの程度行いましたか

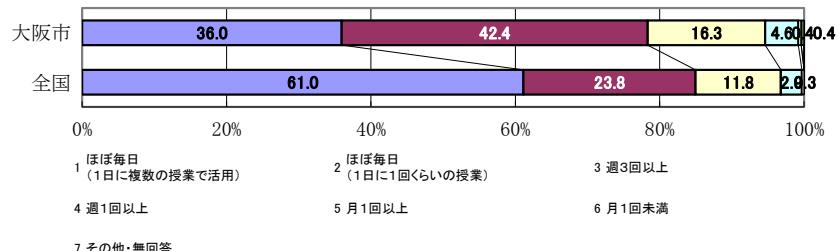
学校 「ほぼ毎日」を選択



58

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか

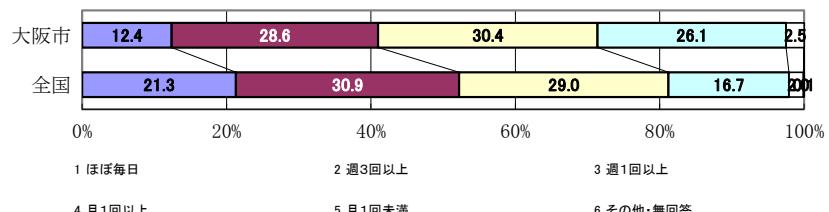
学校 「ほぼ毎日(1日に1回くらいの授業)」を選択



60

調査対象学年の児童が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか

学校 「月1回以上」を選択



61

教職員と調査対象学年の児童がやりとりする場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか

学校 「週1回以上」を選択

